

保健大の研究最前線（研究室を訪ねて）

主催：研究推進・知的財産センター

研究開発科委員会

日時：青森県立保健大学 管理・図書館棟

小山内 豊彦特任教授研究室



平成 29 年 9 月 27 日に、本学の産学連携知的財産アドバイザーである市山俊治から、本学社会福祉学科小山内豊彦特任教授に、ご自身の研究についてインタビューを実施しました。その際のインタビュー内容をご紹介します。

【事務局からの事前質問】

●選考及び担当科目

◇専攻 『地域学』

◇担当科目 人間総合科学科目「人間と文学」及び「青森の風土と生活」

●研究紹介

私は青森県庁に勤めていたが、ほとんどを企画畑で過ごした。「地域経済の分析」、「地域の振興」、「地域計画の策定」等の実践活動に加え、さらに個人的な関心から「地域の歴史」についても研究を重ねた結果、『歴史地域学』とでも呼ぶ独自の研究ジャンルを見出した。

●研究にまつわるエピソードや将来の可能性

ちょうど西暦 2000 年に『地方を識る！』という本を個人で出版した。資料収集等に 1 年、執筆に 1 年半を要したが、我が国においては、古代以来一貫した政治力学が根底に横たわっているということに気づいた。個人的にそれを「律令原理」と呼んでいるが、その原理に基づけば、「道州制の導入」の不可なることがよく理解できるし、地方分権の正しいあり方等をよく論ずることができると考えている。

●サークルでの取組

昨年度、健やか力向上サポート活動の一環として、『ヘルスリテラシー向上部』を立ち上げ、その代表を務めている。学生に対する「健やか力」検定を実施したり、テレビ番組に HL 向上部員に出演してもらい、青森県民の「健やか力」の向上に努めている。

●学生に向けたメッセージ

どの分野で生きていくのであれ、自分独自の「思考の座標軸」を持つことが重要である。その「座標軸」に当てはめて様々な問題を考えていけばよい。

【インタビュー概要】

(市山 AD)

小山内先生は青森県庁の企画部門に勤められていたとのことで、少子高齢化問題や地域の振興など色々なことに取り組まれてきたかと思いますが、どのような取り組みがありましたか？

(小山内特任教授)

私の県での職務の後半で大きな割合を占めていたのは、人口減少の減り幅を少なくするということについて企画から携わることでした。例えば産業振興、新幹線の建設促進、空港で国内便・国際便の便数を増やすことなどです。

最後に携わった計画立案に当たっては、「県内総時間※1」という考え方を取り入れました。観光振興等で県外からの来訪者などの滞在時間である県外移入時間を増やすことも重要ですが、それ以上に県民が県内で使う時間である県民総時間を減らさないようにすることが重要であると考え、青森県の健康寿命を全国平均まで伸ばすことによる経済効果がどれだけ重要であるかを計画の中に盛り込み、「平均寿命のアップ」を経済活動の循環の最初のステップとしました。この経験や考え方は、保健大学でも活かしたいです。

健康寿命の重要性を示す一例ですが、青森県民全体の健康寿命を一年延ばしたことでよりプラスされる県民総時間数と同じ時間数を県外移入時間で補おうとした場合、1泊2日の青森旅行で、青森県内で過ごす時間が30時間程度と仮定すると、数百万人もの膨大な人数が必要であることが理解できると思います。

青森県では農林水産業の人たちの健康寿命が特に短い傾向にあり、減塩や禁煙等の基本的だと思われる健康知識も十分に浸透しているとは言えない状況にあります。今後、青森県の健康寿命を延ばすためには、農林水産業の人たちへ健康知識を波及させることが必要不可欠であると思っています。

※1 県内総時間とは、青森県民であるなしにかかわらず、青森県という一定の地域で一定の期間に使われる時間である。

(市山 AD)

小山内先生は「ヘルスリテラシー向上部」の代表として「健やか力向上」に努められているということですが、詳しく教えていただけますか？

(小山内特任教授)

ヘルスリテラシー向上部は、本学の基本理念に「健やか力を向上させる」ことが含まれていて、この理念に沿って、学内で実施されている「健やか力



向上サポート活動」に採択され、実施している取組みになります。

このサークルでは、「健やか力検定」を実施しています。健やか力検定では、「塩分は何グラムぐらいが適切ですか？」や「たばこにはどういう害がありますか？」といった基礎的な健康知識について、択一式によるテストを実施しています。この取組みはもともと平成 26 年から 27 年にかけて青森県庁の健康福祉部が県民を対象として実施していたのですが、ここでは対象を大学生に変更して、平成 28 年度から実施しています。近隣の大学からも学生を呼び、昨年度は 106 人がこの検定を受けました。今年は 11 月 19 日に試験を実施する予定です。この検定試験で使用する問題は、サークルの学生が作成を担当していただき、試験問題を作ることで作成者自身も健やか力の向上を図っています。

(市山 AD)

この取組みの反響はどうですか？

(小山内特任教授)

青森大学さんからの反響が特に強く、昨年度は薬学部を中心に 50 人を超える参加者がありました。今年は、青森大学を検定試験のサテライト会場として実施できないか打診があった程です。



(市山 AD)

とても反響が強いということですが、ゆくゆくは対象を地域に広げて、成果を地域へ還元していくことも考えられているのですか？

(小山内特任教授)

そうですね。最終的にはそのようにしたいです。

平成 26 年 27 年に青森県庁で検定を実施したときは、トータルで約 700 人が試験を受けていましたが、その殆どが会社員や公務員でした。先に重要だとお話した農林水産業に従事されていた方は、2 年間合わせて 3 人しか検定を受けていませんでした。取組み自体はすごく良いことなのに、一番アプローチしたいところに届いていない状況でしたので、ゆくゆくは、この検定試験を農林水産業に従事されている方に受けていただきたいです。

今は、テレビ番組にヘルスリテラシー向上部員が出演し、企業等での出張検定等の様子をテレビで放映することで、農林水産業に従事されている方へアプローチしています。

(市山 AD)

どのような経緯でテレビ番組へ出演することになったのですか？

(小山内特任教授)

去年のヘルスリテラシー向上部の活動は、「すこやか力検定」に加え大学祭でブースを設け、骨密度測定等を実施するといったことをしていました。2 年目である今年は、かねてから問題意識を持っていた農林水産業に従事されている方へのアプローチに取り組むことにしました。保健大学の活動を積極的に周知することも兼ねて、テレビ放映によるアプローチを企画し、これを青森テレビに相談したところ、採用になり、現在に至っています。

このコーナーは、みちのく銀行にスポンサードしていただいていますので費用的な負担は特に無く、続けることが出来ています。

(市山 AD)

学生に向けたメッセージの中に「思考の座標軸」という言葉がありますが、これはどのようなものでしょうか？

(小山内特任教授)

私の「思考の座標軸」は、物事の過去を知ることから始めるということです。例えば本学に就任した際も過去のLIVEを図書館から借りて、読むことから始めました。

また、統計手法のTCSI分離法で、物事を四つの事象(Trend、Cycle、Seasonal、Irregular)に分けて考える方法がありまして、主に経済的なデータに用いられる方法ですが、経済的なデータ以外でも、この見方をして



います。これらは私の例ですが、学生には自分なりの考え方を身に付けてもらいたいと思います。

(市山 AD)

小山内先生は、保健大学の産学連携特命部長を務められているということですが、産学連携特命部長として保健大学の産学連携活動についてご意見をお願いします。

(小山内特任教授)

本学にも十分に企業等との産学連携活動により商品開発をする力はあると思いますが、もしかすると企業側からは看護の大学と見られていることでその力があることを分かってもらえていないのではないかと思います。

保健大学で持っている知見には県や企業の課題解決に当たって必要なものが多くあると思いますので、教育や地域貢献とバランス取ったうえで、もっと積極的なアピールに打って出てもいいかも知れません。



その他、小山内先生が執筆された本に関する様々なことについて、お話を聞かせていただきました。豊富な知識に基づくお話しは、大変参考になりましたが、内容が多岐に渡るため、ここでの記載は割愛させていただきます。